「会員短信 68」

「光の爪痕」

工藤泰子

大河ドラマの「光る君へ」が始まった。原作は古典文学の最高傑作『源氏物語』である。登場人物の相関図を辿ると当時の暮しや政治まで見えて来る。

光の源（みなもと）にワープしてみよう！なんと「今様」が流行っている。まさに後白河法皇の「遊びをせむんとや生まれけむ」ではないか。和歌は宮廷文学だが大衆歌謡の体である。現代のSNSの走りだ。「うたは風俗」と清少納言も言い切っている。

さて、滑稽俳句を始めて十五年になる。ただその時々を「戯れせんとや生まれけん」と詠むだけではなく、何処かで光の爪痕を残せばと夢想している。

毎回、ルルルルンと舌を巻く八木会長の「今月の秀句」に付く七七の付句によって、ずばり現代が活写される。豪華絵巻を一捲りしてみた。

霜柱踏んで確かむ骨密度 工藤泰子

・・・霜の柱にやまだまだ負けぬ

よく喋る口をもちより百千鳥 日根野聖子

・・・なに言ってるかわからないけど

スキップの蝶ネクタイは蝶になる 工藤泰子

・・・結ぶ前には蛹のかたち

馬鹿なのに馬鹿を演じて四月馬鹿 久我正明

・・・ホントの馬鹿には演技はできぬ

空梅雨の空に在庫の水は無し 稲葉純子

・・・天のお粗末在庫の管理

滑稽俳句は、当意即妙、当位即妙。これからも怖いもの見たさで頑張るつもりだ。